

\* 地域整備計画とは…立野ダム建設により水没する周辺地域の生産機能、生活環境等に及ぼす影響を緩和し、関係住民の生活の安定と産業基盤等の整備を図ることを目的に、平成5年3月、当時の長陽村で計画されたものです。合併に伴い南阿蘇村に引き継がれました。

## 笠野 眞喜議員



### 立野ダム建設を 問う

### 建設を推進する

笠野議員  
村長に就任して9ヶ月、復旧・復興に忙しい毎日で、立野ダム建設をどのように考えているか村民も不安視している。

九州地方整備局立野ダム工事事務所のホームページに、上流の阿蘇市長は「関係機関や周辺地域とも連携をとりながら、地域に親し



火山活動が分かる柱状節理

まれるダムづくりをしつかりと進めてほしい。」菊陽町長は「今後も引き続き情報共有して頂き、立野ダム建設が一日でも早く進むようによろしくお願ひします。」大津町長は「今後、しつかり予算を投入して、素晴らしい安全なダムを造つていただこうお願ひ申し上げたい。今後もダム推進をしつかりと応援していきたい。」熊本市の大西市長も現地説明会に平成28年11月参加している。

村長  
平成29年2月に選挙が行われたが、選挙前に有権者から「立野ダムはどう考えるのか」という質問に対して、明言を避けていた。就任から9ヶ月、ダム建設については様々な方面からの意見や、村の置かれた状況などを聞くことが出来た。現在の状況や今後の村のことを考慮すれば、首長として、総合的にしかも損益を最優先にした場合、建設を推進すべきと考える。

白川下流域の自治体は、早期建設を望んでいる。この要望に応え、こうした方々の生命財産を守ることは、村の使命であると考ええる。

今後とも、安全で地域に根ざしたダム建設となるよう、要望していきたい。

### 地域整備計画 見直しは

### 早期に見直し作業に 着手

笠野議員  
南阿蘇村地域整備計画は平成5年3月策定された(当時は長陽村)。平成28年度の震災で戸下・栃木・数鹿流地区は特に見直しが必要と考える。地域整備計画は河陽地区の白川・黒川付近に限定されているが、合併して12年経過したので復旧・復興事業と合わせて、村全体の地域整備計画に見直してはどうか。

村長  
立野ダム建設に伴う南阿蘇村地域整備計画は、本村の振興発展に重要な事業計画となっている。

平成24年の九州北部豪雨災害では、36事業の計画のうち、残っていた16事業を見直したが、平成28

年の地震により、事業を終えた箇所も含め、再度事業の見直しが必要と考える。

地域整備計画は、震災からの復興に大きく貢献する事業と考えており、建設課に、地元住民の要望を反映させるべく、熊

甚大な被害を受けた立野地域を含めた復興のために、しつかりと見直しを行い、早期に事業着手したいと考えている。

本県や関係



地域整備計画で整備された長陽大橋